

れいわさんねんど
令和三年度

ぶんかげいじゆつ 文化芸術による子供育成総合事業

じゆんかいこうえん じぎょう —巡回公演事業—

まんさく かい
〈万作の会〉
のうがくこうえん
〈能楽公演〉



きまろげん かぎゅう
狂言「蝸牛」



たろうかじや
太郎冠者

ぶんかげいじゆつ 子供育成総合事業 —巡回公演事業— 文化芸術による子供育成総合事業

わくに いちりゅう ぶんかげいじゆつだんたい しょうがっこう ちゅうがっこうなど こうえん こども すぐ ふたいげいじゆつ かんしゅう きかい え
我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

じぜん こども じつえん しどうまた かんしゅう しどう おこな じつえん こども
事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



じょうえんないよう
● 上演内容 ●

かいせつ きょうげん たの やく ふん
【解説】「狂言を楽しもう」(約20分)

かんしやう きょうげん ほんさん やく ふん
【鑑賞】狂言「盆山」(約15分)

かんしやう きょうげん ぶ す やく ふん
【鑑賞】狂言「附子」(約20分)

きょうえん きょうげん かぎゅう やく ふん おお こえ はやしことば とな いっしょ う
【共演】狂言「蝸牛」(約20分) — 大きな声で囃子言葉を唱えて一緒に浮かれよう!

きょうげん ほんさん
狂言「盆山」 …登場人物：2人(男, 何某)

ある男が、流行りの盆山(お盆の上に風景を作った置物)を盗もうと知りあい(何某)の家に忍び込むが、すぐに見つかってしまい物陰に隠れる。家主は隠れている男に、あれは盗人ではない、猿だ、犬だと言ってからかう。男は必死に動物の物真似をしてごまかそうとするが、最後に難問を出され…。

動物の物真似や、パントマイム的な動き、見立てなど、狂言の特徴的な「型」がたくさん登場する演目です。想像力を膨らませてご覧ください。

ことば せつめい
言葉の説明

ほんさん[盆山]…箱庭のように、盆や浅い鉢の上に石や砂で山の形などを作ったもの。

あんない[案内]…あいさつすること。

しわいひと[吝い人]…けちな人。

よしがき[葭垣]…葦を結んで作った垣。

つぼ[坪]…中庭。

ひとおと[人音]…人のいる音、気配。

なむさんぼう[南無三宝]…驚いたり、失敗にきづいた時に発する語。大変だ。

なぶる[鬻る]…からかう。

みぜせり[身ぜせり]…身体を細かく動かすこと。

きょうげん ぶ す
狂言「附子」 …登場人物：3人(太郎冠者, 主, 次郎冠者)

太郎冠者と次郎冠者は主人(主)から留守番を言いつけられる。二人は主人から、猛毒の附子が入っているので決して近づくな、といわれた桶の中身が気になって仕方がなく、何とか桶の中を見ようと知恵を絞る。ようやく中を見ることに成功すると、今度はそれを食べてみたいと太郎冠者が言い出して…。

とんち話でも有名な、狂言の代表的な演目です。太郎冠者と次郎冠者の活躍とともに、「型」を使って豊かに表現される登場人物たちの喜怒哀楽にご注目下さい。

ことば せつめい
言葉の説明

ぶす[附子]…トリカブトという草の根を乾かして作った毒薬。

めっきやく[滅却]…死ぬこと。

じゅもん[誦文]…まじない。

きのどく[気の毒]…心配事。

どうしんでない[同心でない]…賛成しない。

わざをするものはかならずだまる[業をする物は必ず黙る]…ことわざ。崇りをするような者は決して騒ぎ立てたりせず、黙ってしずかに物事をするという意味。

りょうぜられる…魅了される。とりこにされる。

さとう[砂糖]…当時は黒砂糖。水あめの状態で保存され

ており、貴重品であった。

よいことめされた…実は良くないことを、わざと反
対に言うことば。

きこえぬ[聞こえぬ]…道理のない。わからない。

ざれごと[戯れ事]…冗談。

もっけいおしょう[牧谿和尚]…中国の絵描きの僧。
その絵は日本でも好
まれた。

ひそう[秘蔵]…大切にしまっている物。

だいてんもく[台天目]…台にのせた大きな天目茶碗。

てどり[手取]…相撲が上手な人。

なんぼう…どれだけ。いかほど。

かしらかたの[頭固の]…丈夫な。頑丈な。

がっきめ…こいつめ。

おうちゃくもの[横着者]…ずるい奴。

きょうげん かぎゅう 狂言「蝸牛」 — 共演体験 —

しゅじん そふ ちようじゆ くすり たらうかじゃ と たらうかじゃ まちが
主人の祖父のため、長寿の薬になるというかたつむり（蝸牛）を取りにきた太郎冠者に、かたつむりと間違われた
やまぶし やま しゆぎやう ちようのうりよく み そふ たらうかじゃ いっしょ はやしことば う
山伏（山で修行して超能力を身につけた僧）が、かたつむりのふりをして、太郎冠者と一緒に囃子言葉で浮かれる
ばめん えん
場面を演じます。

★児童・生徒の皆さんは、太郎冠者になって、大きな声で山伏を囃してください。

やまぶし はや はや
山伏：さあさあ、囃せ囃せ

たらうかじゃ こころ え あめ かぜ ふ
太郎冠者：心得ました。雨も風も吹かぬに でざかまうちわろ でざかまうちわろ

やまぶし
山伏：でんでんむしむし。でんでんむしむし。でんでんむしむし。でんでんむしむし

たらうかじゃ あめ かぜ ふ
太郎冠者：雨も風も吹かぬに でざかまうちわろ でざかまうちわろ

やまぶし
山伏：でんでんむしむし。でんでんむしむし。でんでんむしむし。でんでんむしむし
〈後、演技が終わるまでくりかえし〉

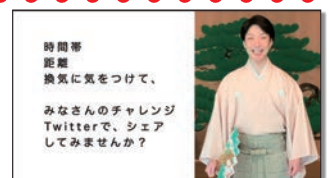
※でざかまうちわろ…「でざ」は「出すば」の縮まったもの。「かま」は「殻」のこと。
「出てこないなら、殻を打ち割るぞ」という意味。

だんたいしやうかい まんさく かい 団体紹介 — 「万作の会」

まんさく かい にんげんこくほう のむらまんさく ちゆうしん こうえん おこな きょうげん し まんさく のむらまんさい いしだ ゆき
「万作の会」は、人間国宝・野村万作を中心に公演を行う狂言師のグループです。万作をはじめ、野村萬斎・石田幸
お はんま かんさく かい きょうげん し こくないかい おお きょうげん のうこうえん しゆつえん がっこう げきじやう かんまき
雄ほか「万作の会」の狂言師たちは、国内外で多くの狂言・能公演に出演しています。また、学校や劇場などで観客
に狂言を体感してもらうワークショップを行ったり、大学やカルチャースクール、専門学校などで講師として指導を
おこな きょうげん ふ きゆうかつどう つと きょうげん すく ひやうげん きほう い あたら こうろ と
行うなどし、狂言の普及活動に努めています。また、狂言の優れた表現技法を生かした新しい試みにもしばしば取り
組み、その演技・演出でも高い評価を受けています。

まんさく かい
万作の会ホームページ <http://www.mansaku.co.jp>

★万作の会のYouTubeチャンネル「野村萬斎@狂言ござる乃座」では、
野村萬斎をはじめとする万作の会の狂言師が、狂言の「型」をレクチャー
する動画を配信しています。ぜひご覧下さい。



鑑賞の手引き—「狂言を楽しもう」

狂言は、650年ほど前、室町時代に能とともに成立した、日本特有の伝統芸能です。能と狂言を合わせて「能楽」といいますが、能が伝説や歴史物語を題材に、登場人物の心情を謡（歌）と舞で表現する幻想的な劇であるのに対し、狂言はセリフとしぐさで写実的に話が進む、喜劇的な対話劇です。題材も私たちの身の回りで実際に起こるような小さな事件であることが多く、能と違って歴史上の人物はほとんど登場しません。

おろかな大名、たくましい家来、口うるさい妻、こけおどしの山伏、気弱な鬼、はては猿、狐、狸、茸や蚊の精までが登場し、日常生活の中で誰もが感じたことがありそうな心の動きを、洗練された笑いに表現しています。この狂言の笑いこそ真に人間らしい感情の表出であり、人間への賛歌であると言えるでしょう。

また、狂言は非常に優れた演技術を「型」として持っています。声を使うにも、しゃべる・語る・謡うという技があります。身体技術でもアクロバティックな技もあれば、様式的な舞もあり、またパントマイムのような写実的な所作もあります。

狂言は「素手の芸」と言われます。道具をほとんど使わず、声と身体だけで空間や時間を埋め、ないものがあるように見せるのです。想像力を働かせて自由にご覧下さい。



能舞台での上演のようす

知ってますか？～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。